

花のお江戸を歩く会

1回目：古寺巡礼&早稲田の森散歩

「神楽坂～天神町寺町～早稲田大学周辺」

《散歩道の概要》

今回は神楽坂～早稲田の森に点在する名刹や夏目漱石の足跡、早稲田大学記念館、大隈重信記念公園など、古寺巡礼&文学の散歩道を歩きます。

《散歩道の順路》

東西線神楽坂駅→赤城神社（神楽坂総鎮守）→あかぎ児童遊園→天神町北野神社→済松寺（3代徳川家光ゆかり）→宗参寺（牛込氏菩提寺）→漱石公園（夏目漱石旧居跡）→天祖神社→夏目漱石生誕地→会津八十一記念博物館→坪内逍遙演劇博物館→大隈重信記念公園→水稲稲荷神社→甘泉公園（御三卿清水家下屋敷跡）→高田の馬場跡（堀部安兵衛ゆかり：解散）→JR 又は東西線「高田馬場駅」

《個別ガイド》

① 赤城神社（神楽坂総鎮守）

正安2年(1300年)、群馬県赤城山麓の大胡の豪族であった大胡彦太郎重治が牛込に移住した時、本国の鎮守であった赤城神社の御分霊をお祀りしたのが始まりと伝えられています。その後、寛正元年(1460年)に太田道灌が神威を尊んで、牛込台(今の牛込見付附近)に遷し、さらに弘治元年(1555年)に、大胡宮内少輔(牛込氏)が現在の場所に遷したといわれています。この牛込氏は、大胡氏の後裔にあたります。天和3年(1683年)、徳川幕府は江戸大社の列に加え牛込の総鎮守と崇め、「日枝神社」「神田明神」と共に、「江戸の三社」と称されました。この三社による祭礼の際における山車、練物等は江戸城の竹橋から内堀に入り半蔵門に出ることを許されていました。→あかぎ児童遊園(通称：像さん公園)

② 天神町北野神社

大友宗麟の孫の義延は徳川秀忠に仕え天神町から榎町にかけて大友屋敷を賜って住んでいた。義延はこの屋敷内に大宰府の天満宮を勧請し、お祀りした。彼の死後大友家は断絶し、天満宮は尾張徳川家の外山屋敷から、真定院へ移され「高田天神」と呼ばれて崇敬されていた。江戸名所図会に「八幡宮より馬場の方へ行く道の左側にあり」と紹介されている。真定院が明治維新のとき廃寺となったので、高田天神は水稲稲荷神社の境内に移転した。大友家が断絶後その跡地を大橋隆慶が拝領して住み、隆慶も天満宮を崇敬していたので、将軍家から菅公の像をご神体としてお祀りした。これが当社に引き継がれている天満宮である。なお本社は赤城神社の管理下にあるようである。

③ 済松寺（3代徳川家光ゆかり）

蔭涼山済松寺は、徳川三代将軍家光公が、祖心尼のために建てた臨済宗の大禅院です。

家光公は、全面的な信頼を寄せていた祖心尼に対し、寺を寄進することを思い至りました。そして、自ら牛込の地にやってきて、馬上から鞭によって領地の範囲を示したと伝えられています。それにより、幕府祐筆の大橋龍慶屋敷跡を拝領し、完成したのが済松寺です。

家光は宗門と徳川家が共に栄えるようにとの願いから、臨済宗の祖・臨済禅師の済と徳川家の祖・松平の松をとって、正保3(1646年)年十二月、済松寺と名づけました。また大樹となって天下万民の蔭涼(涼しい木陰)たらんとの願いを込め山号を「蔭涼山」と名づけました。家光公は晩年に「自分の遺骸を日光に葬るとも、心は済松寺にある」と述べ、厚い信仰心を吐露されました。

④ 宗参寺(牛込氏菩提寺)

曹洞宗・宗参寺の牛込氏墓地には、寛文4年(1664年)に牛込勝正が、重行と勝行を供養して建てた供養塔を中心に歴代の墓があります。牛込氏はもと武蔵国守護の上杉氏の家臣でしたが、小田原北条市の家臣となって、牛込地区の領主になりました。重行一勝行一勝重と北条氏に仕えました。

江戸時代の儒学者・兵学者である『山鹿素行の墓』もあります。これは、国指定史跡とされています。山鹿素行は、会津に生まれて江戸で儒学や兵学を学びました。家塾をおこして多くの門弟を育てましたが、当時の官学であった朱子学を批判したため、赤穂藩へ流されます。晩年には許されて江戸に帰り、「積徳堂」を開きました。著書が多く、「山鹿素行全集」にまとめられています。→**漱石公園(夏目漱石旧居跡。記念館建設で閉園中)**→**鶴巻南公園**

⑤ 天祖神社

具体的な創建時期は、不明であるが、天和2年(1682年)に、今の榎町から現在の地に遷座されたものとなる。当時は、あたり一面がミョウガ畑であったことから、茗荷畑の神明宮と呼ばれ、住民から崇敬をあつめていた。江戸時代には、神明宮、明神神社と称していたが、明治時代になり、天祖神社と改められ、無各社として、赤城神社の附属社となった。

⑥ 大隈庭園

大隈屋敷の竣工した明治20年に庭園も完成したと思われる。旧来からあったものを改造したのであるが、芝生を広く取り入れ、遠景に築山と池を配しています。大正11年に大隈重信の没後、その遺志によって早稲田大学に寄附され、大隈会館の庭園として活用されました。戦災で全壊に近い被害を受けたが、戦後復旧されました。

⑦ 会津八十一記念博物館

會津八一記念博物館の建築は、当初早稲田大学の図書館として建てられました、1925年に完成した、現在早稲田大学で2番目に古い鉄筋コンクリート造りのこの建物です、多角形をなす屋根や随所にとりいれられた優美な曲線は表現主義の流れを汲むもので、当時の大学の校舎としては独創性に富んだものでした。一見シンプルな外観の建物ですが、大扉を飾る八角星の透かし彫り、美しい柱頭を戴く六本の柱、階段室の手すりの下に置かれた

月のモチーフなど、その内部には隅々まで意匠がほどこされています。

⑧ 坪内逍遙演劇博物館（演博）

早稲田大学坪内博士記念演劇博物館（通称エンパク）は、1928（昭和3）年10月に設立されました。坪内逍遙は開館式で「よき演劇をつくり出すには、内外古今の劇に関する資料を蒐集し、整理し、これを比較研究することによって基礎をつくる必要がある」と述べたと伝えられています。その志を受け継ぎ、当館は今日に至るまで古今東西の貴重な資料を収集・保管・展示してきました。収蔵品は百万点を超え、アジアで唯一の、そして世界でも有数の演劇専門博物館です。→新目白通り

⑨ 甘泉公園（御三卿清水家下屋敷跡）

当地は徳川御三卿の一つ・清水家の下屋敷があったところで、当公園は屋敷にあった回遊式の大庭園であった。当地から湧き出ている湧き水がお茶に適して評判であったことから、「甘泉園」と呼ばれていた。明治時代には相馬子爵家の邸宅になったが、昭和13年に近隣にある早稲田大学の施設となった。戦後は東京都に売却されて都立公園となったが、1969年に新宿区の管轄となって現在に至る。

⑩ 水稲稲荷神社

水稲稲荷神社は、水と緑の神様である倉稲魂大神（うかのみたまのおおかみ）佐田彦大神（さだひこのおおかみ）大宮姫大神（おおみやひめのおおかみ）をご祭神としています。

平将門を討ったことでも知られる鎮守府将軍・俵藤太秀郷が、「富塚」という古墳に稲荷大神を勧請したことが始まりといわれ、もともとは「富塚稲荷」、「将軍稲荷」と呼ばれて信仰を集めていました。

元禄15（1702）年に境内にあった大椋（おおむく）の樹の下に霊水が湧き、その際「我を信仰する者には火難を免れしむべし」とのご神託があったことに由来して、「水稲荷」と称するようになったといわれています。

境内にある「高田富士」（戸塚富士あるいは富塚富士とも）は早稲田大学拡張工事の際に、同大学の構内にあった江戸中最古の富士塚を移築したものである。普段は登拝できないが、7月の海の日とその前日に催される「高田富士まつり」の際に一般の登拝が可能となっている。

神社が早稲田大学に隣接していることから、大学の創始者である大隈重信も毎日参拝に訪れていたのだとか。昭和38（1963）年には早稲田大学と境内の土地を交換し、当時大学が所有していた甘泉園の一部に社地を移して現在に至っています。現在も、多くの学生さんたちや早稲田大学合格を目指す受験生が参拝に訪れています。

⑪ 高田の馬場跡（堀部安兵衛ゆかり）

西早稲田3丁目1・2・12・14番を含む長方形の土地が、江戸時代の高田馬場跡である。馬場は寛永13年（1636）に造られたもので、旗本たちの馬術の練習場であった。また、穴八幡神社に奉納するため催された流鏝馬などが行われ、将軍の供覧に入れたところでもある。

享保年間（1716～1753）には馬場の北側に松並木がつけられ、8軒の茶屋があったとき

れている。土地の農民が人出の多いところを見て、茶屋を開いたものと思われる。

また、馬場の一角、茶屋町通りに面したところは堀部安兵衛が叔父の菅野六郎左衛門の決闘の助太刀をしたとされるところで、水稻荷神社の境内には「堀部武庸加功遺跡の碑」が建っている。→早稲田通り

⑫ 穴八幡神社

社伝によれば、1062年（康平5年）源義家が奥州からの凱旋の途中、この地に兜と太刀を納め、八幡神を祀ったという。1636年（寛永13年）ここに的場が造られ、この八幡宮を守護神とした。1641年（寛永18年）宮守の庵を造るため、社僧良晶が南側の山裾を切り開いていると横穴が見つかり、中から金銅の御神像が現れた。掘った人は「芽出度い」と大喜びし、以来、「穴八幡宮」と称するようになった。3代将軍徳川家光は、この話を聞いて穴八幡宮を幕府の祈願所・城北の総鎮護とした。

歴代将軍がたびたび参拝し、8代将軍徳川吉宗は、1728年（享保13年）に世嗣の痲瘡平癒祈願のため流鏝馬を奉納した。流鏝馬はその後も世嗣誕生の際や厄除け祈願として奉納され、穴八幡宮に伝わる「流鏝馬絵巻」には1738年（元文3年）に奉納された竹千代（後の10代将軍徳川家治）誕生祝の流鏝馬が描かれている。

江戸の庶民からも信仰を集め、特に蟲封じの祈祷は有名だった。1879年（明治12年）には皇太子（後の大正天皇）の御蟲封祈禱も行っている。

布袋像の水鉢・新宿区指定有形文化財（工芸品）は1649年（慶安2年）造立、区内最古の水鉢。江戸城吹上御苑に置かれていたが、徳川家光により奉納されたという。

⑬ 夏目漱石生誕の地

夏目坂をのぼりかけたすぐ左手に『夏目漱石誕生之地』と刻まれた黒御影石の記念碑が建てられています。昭和41年、漱石の生誕100年を記念して建てられ、文字は遺弟子である安倍能成氏によるものです。

漱石は慶応3年(1867年)1月5日(新暦の2月9日)、この地に生まれました。現在の喜久井町1番地です。誕生の地から若松町の方へと上る坂を「夏目坂」と命名したのは、漱石の父・直克です。このことは、漱石自身が随筆「硝子戸の中」に書いています。江戸幕府が開かれる前から牛込の郷土として土着していた夏目氏は、元禄期以降、馬場下の名主を世襲していたため、町名を当家にゆかりのあるものとししました。→JR 又は東西線「早稲田駅」(解散)